

事業所名

(成長支援型) 児童デイサービス りるとわか葉

支援プログラム (放課後等デイサービス)

作成日

令和7 年

3 月

5 日

法人 (事業所) 理念		誰一人取り残さない地域社会の“ライフライン”となります。					
支援方針		児童ひとりひとりの強みを活かすストレングス視点でもともと持っている強みを“見つけ”“支え”“伸ばしていく”。目標をスモールステップで設定し、児童の充実感、達成感を育み、自己肯定感を高めていく。					
営業時間		9 時	30 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 児童のスケジュール把握にホワイトボード、絵カード等を準備し見通がもてるようにし、活動の切り替えの際も、絵カードやタイマーを使い不安なく過ごせるよう支援する。 支援の中で児童の変化、小さなサインを見落とさない様に注意し、普段と違う様子があればすぐに気づき対応できるようにする。 日々の生活の中で声掛けや職員と一緒にを行うことにより、挨拶、身だしなみ、荷物管理、排泄など生活スキルを身につけ、スキルの向上、習慣化できるよう支援していく。 					
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 常駐する専門職による個別リハビリ、スウィングやトランポリンなどを用いた感覚統合療法を行うことにより、感覚情報を適切に処理できるよう促し、児童が楽しみながら感覚統合する力を育てる。 活動のなかで粗大運動だけでなく微細運動も取り入れていき、五感の協調性や手先の器用さ、集中力などを養っていく。 					
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 感覚統合療法や遊びを通して、数や時間、空間の把握など認知形成を促すための遊びを取り入れることで、児童が理解しやすくなるよう支援する。 気持ちが不安定になった際に自分の気持ちの理解、適切な行動ができる様に視覚的なツールの活用、クールダウン室の準備、リラックスする方法の獲得など、児童一人一人に合ったサポートや環境を整えていく。 					
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりや集団活動の中で、自分に合った方法で安心して意思の表現ができる様に支援していく。その中で、「相手の気持ちが分からない」、「会話の順番が理解しにくい」、「適切な言葉がでない」などの児童の特性を理解し、特性に合わせた支援を行っていく。 絵本やボードゲームなどを通し文字や文章に興味を持ち、読み書きや語彙力の向上を促していく。 					
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通してルールのある遊び、勝敗のつく遊びを設定し、自己理解や他者理解を深めることで、円滑なコミュニケーションがとれるよう支援して社会性を養っていく。 場面に応じた適切な行動ができるよう職員がまず模範となり、状況ごとに適した行動を学ぶ機会をソーシャルスキルトレーニングなどを通し学び支援していく。 					
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 安心して子育てができるよう、保護者同士が交流する場「コミュると」を年に3～4回開催。 家庭や学校など日常での困りごとに対して相談援助を行う。 			移行支援	進級、進学など、次のステージへのステップアップに向けた適切な準備とサポートを行っていく。	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所や役場などと連絡をとりあいながら、地域全体で支援体制を強化していく。 			職員の質の向上	FC・直営事業所合同研修、人間力研修、症例検討会、法定研修、感染予防、防災、虐待防止、身体拘束等に対する研修と訓練を定期的に行い、各職員の能力や質の向上を目指していく。	
主な行事等		春：お花見 夏：夏祭り 秋：ハロウィン 冬：クリスマス					